

この60年を振り返る その1

生まれたのは、平市草野村。父親は中学校教員でした。初任は平二中。今の校舎を建てたときの思い出をよく話しておりました。校庭の整地のために、近くの夏井川のほとりまで砂を取りに行き、生徒と一緒に何回も何回も運んだり、近くの下宿に住んで、生徒を毎日下宿に呼んで勉強させたりしていたそうです。その後、草野中学校に転勤し、自宅に生徒を呼んで教えたことは私の記憶にもあります。

母親は、市の職員であったものの、結婚後に私を生んで、職を辞して専業主婦となり、田畑がありましたので、見よう見真似から農業を行っていました。

私が幼少の折には、馬も飼っていたと聞いたことがあります。稲わらやたい肥などをリヤカーに積んで、家と田畑を往復した記憶は、私の中にあります。家族総出で行っていた田植えや稲刈り、脱穀やモミ刷りなど高校時代になっても、手伝った記憶があります。

手を真っ赤にししながら、収穫したねぎの束を冷たい水で洗って白く輝くような白さに見ほれたこともあります。稲刈りの後に落ち歩拾いをして、一升ぐらいの量に驚くこともありました。田の中に生えたセリを収穫したり、藁ボッチの中で遊んだり、家のすぐ前に流れる川で魚釣りをしたり、水路をせき止めてドジョウを掘ったり、柿の木をもいで皮をむいて軒につるしたり、生活が季節とともにあったのを思い出します。

小学3年生になると、放課後は必ず小学校に集まって、毎日のようにソフトボールの試合をしておりました。午後6時ぐらいになるとサイレンが鳴りますので、そのサイレンまではほとんどの男の子がソフトボールに興じておりました。すると、いやがうえにも実力差が生まれてきます。6年生がその力を品定めして、チームを作るときに順にメンバーを決めていきます。毎日が、ドラフト選出のような気分です。サッカーが流行りだしたのは、小学6年になってからです。それも決まって冬の競技でした。

中学生になると、野球部に入部します。軟式A球ボールの時代です。1年生は決まって球拾いです。レフトの奥に来迎寺のお墓があったので、お墓の周りや竹藪を球拾いするのが日課となりました。中体連でいわき市準優勝となり、県大会で福島高校に出かけて行ったのを思い出します。中学校2年生は投手と外野手。中学校3年生は外野手となりました。

できたばかりの草野中学校の校舎を私の打球が越えていくこともありました。屋上の国旗を掲げるポールに打球が当たったこともありました。(続く)